

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月7日

上場会社名 日清オイリオグループ株式会社 コード番号 2602 代表者 (役職名) 代表取締役社長 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有 四半期決算説明会開催の有無 : 無	上場取引所 東・大 URL http://www.nisshin-oillio.com (氏名) 今村 隆郎 (氏名) 太田良 猛 (TEL) 03(3206)5670 配当支払開始予定日 —
--	--

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	238,174	△1.1	5,181	△17.4	5,124	△13.7	2,542	△24.0
24年3月期第3四半期	240,832	3.3	6,274	△13.8	5,939	△10.6	3,344	△20.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 3,231百万円 (－%) 24年3月期第3四半期 △1,779百万円 (－%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	15.30	—
24年3月期第3四半期	19.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	247,274	114,530	43.7
24年3月期	237,132	113,266	45.2

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 108,045百万円 24年3月期 107,092百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
25年3月期	—	5.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	310,000	△0.8	3,500	△40.7	3,500	△35.1	1,300	△66.1	7.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料5ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	173,339,287株	24年3月期	173,339,287株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	7,162,649株	24年3月期	7,157,670株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	166,179,127株	24年3月期3Q	167,951,756株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(参考)

平成25年3月期の個別業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	187,000	2.4	3,500	△21.7	4,200	△20.0	2,000	△18.6	12.03

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(7) 重要な後発事象	12
4. （参考）補足情報	13
個別業績の概要	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、東日本大震災からの復興需要等に支えられ回復を続けてきましたが、欧州経済の後退やアジア経済減速の影響を受け、足踏み状態となっています。しかし、衆議院の解散・総選挙を境に円安傾向が強まったことで輸出企業の業績回復への期待感が高まり株高が進むなど、不透明ながら景気回復の環境が整いつつあります。

このような環境下において、当社グループでは、「GROWTH 10～『植物のチカラ』を新たな価値へ』成長10年構想～」のもと、昨年度からスタートした中期経営計画「GROWTH 10 フェーズⅡ」において、「安定した収益基盤の確立」と「確かな成長の実現」をテーマに事業構造の変革を進め、利益志向・技術重視・海外市場開拓をキーワードに経営資源の再配分を積極的に推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績としましては、売上高は前年同期に比べ1.1%減少の2,381億74百万円となりました。また、利益面では、営業利益が51億81百万円と前年同期に比べ17.4%、経常利益が51億24百万円と同13.7%、四半期純利益が25億42百万円と同24.0%、それぞれ減少しました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

〔油脂・油糧事業〕

油脂・油糧事業につきましては、引き続き厳しい環境となっております。穀物相場は、世界的な食糧需要の増加や南米・米国の大豆減産懸念などを背景に高騰し、9月につけた大豆相場史上最高値の水準からは下落したものの、当四半期累計期間を通して高値圏で推移しました。一方、為替につきましては、年末にかけて急激に円安が進みましたが、当四半期累計期間は総じて円高の水準で推移しました。このように、為替は円高で推移したものの、原料高騰の影響が大きかったことから、大豆・菜種などの原料価格は、前年同期に比べ上昇いたしました。

国内につきましては、油脂製品について引き続き高付加価値商品の拡販を推進するとともに、適正な販売価格の形成に取り組みました。その結果、販売価格は前年後半に比べ上昇し、販売数量も前年同期比で増加しましたが、販売価格の上昇が前年同期の水準までには至らなかったことにより、売上高は前年同期を下回りました。油粕につきましては、大豆粕は可食油需要の大豆油から菜種油へのシフトにより大豆搾油量が減少し販売数量は前年同期を下回ったものの、原料大豆価格及びミールバリューの上昇により販売単価が上昇し、売上高は前年同期に比べ増加しました。菜種粕は販売数量、販売単価とも前年同期を上回り、売上高は前年同期に比べ増加しました。

大連日清製油有限公司につきましては、中国国内において、大豆輸入の急増にもかかわらず需要の伸びが追いついていないことなどを背景に、原料コストの上昇を製品価格に転嫁しにくい環境が続く中、採算重視の絞り込んだ販売活動等を実施しました。その結果、販売数量および売上高は前年同期を上回ることはできましたが、利益面においては厳しい状況が続きました。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同期に比べ1.7%増加の1,594億7百万円となりましたが、営業利益は40億41百万円と前年同期に比べ12.4%減少しました。

〔加工油脂事業〕

国内の加工油脂事業につきましては、主としてショートニング類を中心に販売数量を伸ばし、利益面でも前年同期を上回りました。子会社の大東カカオ(株)につきましては、売上高は前年同期並みを確保し、利益面においては前年同期を上回りました。

Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd. につきましては、販売数量は前年同期並みを確保しましたが、パーム油相場低下や代用脂市場の市況低迷およびインドネシアの輸出関税体系変更などにより精製マージンが悪化し、売上高、利益面ともに前年同期を下回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同期に比べ11.6%減少の573億63百万円となりました。また、利益面では、Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd. の100%子会社化に伴うのれんの償却が新規に発生したこともあり、営業利益は10億3百万円と前年同期に比べ28.4%減少しました。

〔ヘルシーフーズ事業〕

ドレッシング・マヨネーズ類につきましては、「日清ドレッシングダイエット」を中心に積極的な販売活動を展開したことにより、販売数量、売上高ともに前年同期を上回ることができました。一方、子会社のもぎ豆腐店(株)につきましては、豆腐の原料である大豆価格高騰の影響等により前年同期に比べ減益となりました。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同期に比べ1.9%増加の54億60百万円となりましたが、営業損失は1億46百万円と前年並みに留まりました。

〔ファインケミカル事業〕

化粧品原料につきましては、欧州の経済低迷や中国の成長鈍化の影響を受けたものの、アジア全体への拡販が順調に進み、輸出全体では前年同期を上回りました。一方、国内販売につきましては震災特需のあった前年同期までには至りませんでした。化粧品原料全体としては、前年同期並みを確保することができました。一方、化学品・中鎖脂肪酸油の売上高につきましては、前年同期を下回りました。

Industrial Quimica Lasem, S.A.U. につきましては、一昨年7月に株式を取得し連結子会社となっておりますが、欧州経済の後退の影響を受けて厳しい業績となっております。なお、昨年7月に同社の株式を追加取得し、同社は100%子会社となっております。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同期に比べ23.0%増加の95億41百万円となりましたが、新たなのれんの償却負担の影響もあり、営業利益は4億4百万円と前年同期に比べ24.9%減少しました。

〔大豆食品素材事業〕

大豆食品素材事業につきましては、生産・販売・技術サポートが一体となった事業展開や、新商品による顧客・市場開拓を進め、販売数量、売上高ともに前年同期を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同期に比べ16.0%増加の39億54百万円となり、営業利益は37百万円と前年同期に比べ14百万円増加しました。

〔その他〕

情報システム事業をはじめその他の事業の売上高は、前年同期に比べ6.0%減少の24億45百万円となり、営業利益は2億65百万円と前年同期に比べ1.5%減少しました。

〔地域別売上高〕

中国、マレーシアなどのアジア向け売上高は、大連日清製油有限公司の売上が前年を上回ったことなどから、前年同期に比べ2.7%増加の369億74百万円となりました。また、欧州、米国などのその他地域への売上高は、欧州経済の後退の影響を受けIntercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd.の欧州向け販売が減少したことなどから、前年同期に比べ11.6%減少の186億96百万円となりました。なお、連結売上高に占める海外売上高の割合につきましても、前年同期に比べ0.3ポイント減少し23.4%となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債および純資産の状況の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ101億41百万円増加し、2,472億74百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が63億14百万円、短期貸付金が99億98百万円それぞれ減少した一方で、売上債権が178億70百万円、たな卸資産が89億95百万円それぞれ増加したことです。

負債は、前連結会計年度末に比べ88億77百万円増加し、1,327億44百万円となりました。主な要因は、社債が50億円減少した一方で、仕入債務が73億48百万円、短期借入金が22億31百万円、未払金が13億60百万円、未払法人税等が13億41百万円それぞれ増加したことです。

純資産は、利益剰余金が8億80百万円増加したことに加え、少数株主持分が3億11百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ12億63百万円増加の1,145億30百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に対して163億13百万円減少し、106億65百万円となりました。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動によるキャッシュ・フローは、79億26百万円の減少となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益52億64百万円、減価償却費43億90百万円および仕入債務の増加72億81百万円によるキャッシュの増加、売上債権の増加177億39百万円およびたな卸資産の増加87億45百万円によるキャッシュの減少であります。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動によるキャッシュ・フローは、33億40百万円の減少となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出35億52百万円です。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動によるキャッシュ・フローは、52億15百万円の減少となりました。主な内訳は、短期借入金の純増額16億88百万円および長期借入金の借入による収入21億43百万円によるキャッシュの増

加、長期借入金の返済による支出20億81百万円、社債の償還による支出50億円および配当金の支払16億62百万円によるキャッシュの減少であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月9日に公表しました平成25年3月期連結業績予想数値を以下の通り修正しております。詳細は、本日平成25年2月7日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

平成25年3月期連結業績予想数値の修正（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 330,000	百万円 6,500	百万円 6,000	百万円 3,000	円 銭 18.05
今回修正予想 (B)	310,000	3,500	3,500	1,300	7.82
増減額 (B－A)	△20,000	△3,000	△2,500	△1,700	
増減率 (%)	△6.1	△46.2	△41.7	△56.7	
(参考) 前期実績 (平成24年3月期)	312,628	5,900	5,395	3,833	22.88

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

原価差異の繰延処理

季節的に変動する操業度により発生した原価差異は、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動負債として繰延べております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,222	10,908
受取手形及び売掛金	56,001	73,872
有価証券	251	202
たな卸資産	44,065	53,060
その他	17,597	8,734
貸倒引当金	△28	△21
流動資産合計	135,109	146,757
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	25,885	27,021
機械装置及び運搬具(純額)	16,032	15,060
土地	28,206	28,209
その他(純額)	3,838	3,529
有形固定資産合計	73,962	73,821
無形固定資産		
のれん	4,560	4,003
その他	1,805	1,614
無形固定資産合計	6,365	5,618
投資その他の資産		
投資有価証券	16,114	15,772
その他	6,108	5,840
貸倒引当金	△587	△584
投資その他の資産合計	21,636	21,028
固定資産合計	101,964	100,468
繰延資産		
社債発行費	58	48
繰延資産合計	58	48
資産合計	237,132	247,274

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,511	38,860
短期借入金	18,608	20,840
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払法人税等	398	1,740
引当金	53	24
その他	17,786	20,932
流動負債合計	73,359	87,397
固定負債		
社債	25,000	20,000
長期借入金	17,540	17,614
引当金	2,387	2,372
負ののれん	13	7
その他	5,565	5,351
固定負債合計	50,506	45,346
負債合計	123,866	132,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,332	16,332
資本剰余金	26,072	26,072
利益剰余金	68,284	69,164
自己株式	△2,781	△2,783
株主資本合計	107,907	108,786
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,083	1,305
繰延ヘッジ損益	99	△20
為替換算調整勘定	△1,998	△2,025
その他の包括利益累計額合計	△814	△740
少数株主持分	6,173	6,485
純資産合計	113,266	114,530
負債純資産合計	237,132	247,274

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	240,832	238,174
売上原価	201,223	198,667
売上総利益	39,609	39,506
販売費及び一般管理費	33,334	34,324
営業利益	6,274	5,181
営業外収益		
受取利息	59	78
受取配当金	231	232
為替差益	270	303
負ののれん償却額	7	6
持分法による投資利益	144	175
その他	184	312
営業外収益合計	898	1,108
営業外費用		
支払利息	969	927
たな卸資産処分損	67	58
その他	195	180
営業外費用合計	1,233	1,165
経常利益	5,939	5,124
特別利益		
固定資産売却益	—	195
投資有価証券売却益	126	7
負ののれん発生益	—	18
特別利益合計	126	220
特別損失		
災害による損失	170	—
固定資産売却損	10	—
固定資産除却損	185	77
投資有価証券評価損	162	3
特別損失合計	528	80
税金等調整前四半期純利益	5,537	5,264
法人税等	1,846	2,187
少数株主損益調整前四半期純利益	3,690	3,076
少数株主利益	346	534
四半期純利益	3,344	2,542

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,690	3,076
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△469	236
繰延ヘッジ損益	△3,902	△78
為替換算調整勘定	△1,049	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	△48	2
その他の包括利益合計	△5,470	154
四半期包括利益	△1,779	3,231
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,145	2,616
少数株主に係る四半期包括利益	△633	614

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,537	5,264
減価償却費	4,584	4,390
のれん償却額	63	542
退職給付引当金の増減額(△は減少)	28	21
受取利息及び受取配当金	△291	△310
支払利息	969	927
持分法による投資損益(△は益)	△144	△175
災害損失	170	—
固定資産除売却損益(△は益)	196	△117
投資有価証券売却損益(△は益)	△126	△7
投資有価証券評価損益(△は益)	162	3
負ののれん発生益	—	△18
売上債権の増減額(△は増加)	△12,881	△17,739
たな卸資産の増減額(△は増加)	△940	△8,745
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,343	7,281
その他	3,571	2,009
小計	△3,443	△6,674
利息及び配当金の受取額	291	312
利息の支払額	△892	△859
法人税等の支払額	△368	△705
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,413	△7,926
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の純増減額(△は増加)	△8	—
有形固定資産の取得による支出	△3,038	△3,552
有形固定資産の売却による収入	10	11
投資有価証券の取得による支出	△150	△22
投資有価証券の売却による収入	180	21
投資有価証券の償還による収入	300	750
連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の取得による支出	△1,829	—
関係会社株式の取得による支出	—	△340
その他	△406	△208
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,941	△3,340
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	716	1,688
長期借入れによる収入	13,209	2,143
長期借入金の返済による支出	△2,605	△2,081
社債の発行による収入	9,933	—
社債の償還による支出	△5,010	△5,000
配当金の支払額	△1,692	△1,662
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△2,270	△1
少数株主への配当金の支払額	△212	△50
その他	△148	△252
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,919	△5,215
現金及び現金同等物に係る換算差額	△460	169
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,103	△16,313
現金及び現金同等物の期首残高	15,992	26,978
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,095	10,665

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社は、本社に製品別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品について国内および海外の包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。したがって、当社は事業部を基礎とした製品別セグメントから構成されており、「油脂・油糧事業」、「加工油脂事業」、「ヘルシーフーズ事業」、「ファインケミカル事業」および「大豆食品素材事業」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品は、以下のとおりであります。

事業区分	主要製品
油脂・油糧事業	家庭用食用油、業務用食用油、加工用油脂、油粕
加工油脂事業	パーム加工品、チョコレート用油脂、マーガリン、ショートニング、チョコレート関連製品
ヘルシーフーズ事業	ドレッシング・マヨネーズ類、生活習慣病対応食品、高齢者・介護食品、治療関連食品、栄養調整食品、機能性素材、豆腐類
ファインケミカル事業	化粧品・トイレタリー原料、化学品、中鎖脂肪酸油、レシチン、トコフェロール、洗剤、殺菌洗浄剤、界面活性剤
大豆食品素材事業	食品大豆、大豆たん白
その他	コンピューター関連、販売促進、スポーツ施設経営、損害保険代理、不動産賃貸

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	油脂・ 油糧事業	加工油脂 事業	ヘルシー フーズ 事業	ファイン ケミカル 事業	大豆食品 素材事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	156,806	64,895	5,359	7,760	3,409	238,231	2,601	240,832	—	240,832
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,004	2,988	55	55	42	5,146	1,512	6,659	(6,659)	—
計	158,810	67,884	5,414	7,816	3,452	243,378	4,114	247,492	(6,659)	240,832
セグメント利益 又は損失(△)	4,612	1,400	△142	538	23	6,432	270	6,702	(427)	6,274

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額(427)百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。なお、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	油脂・ 油糧事業	加工油脂 事業	ヘルシー フーズ 事業	ファイ ンケミ カル 事業	大豆食品 素材事業	計				
売上高										
外部顧客に対する 売上高	159,407	57,363	5,460	9,541	3,954	235,728	2,445	238,174	—	238,174
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,113	2,913	52	129	45	5,253	1,532	6,786	(6,786)	—
計	161,520	60,277	5,512	9,671	4,000	240,981	3,978	244,960	(6,786)	238,174
セグメント利益 又は損失(△)	4,041	1,003	△146	404	37	5,340	265	5,605	(424)	5,181

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額(424)百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。なお、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 地域に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	その他	合計
売上高	183,690	35,987	21,154	240,832
売上高に占める比率	76.3%	14.9%	8.8%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	その他	合計
売上高	182,503	36,974	18,696	238,174
売上高に占める比率	76.6%	15.5%	7.9%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。

4. (参考) 補足情報

個別業績の概要

平成25年3月期第3四半期の個別経営成績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	144,509	0.6	3,963	△12.5	4,715	△8.7	3,054	△4.3
24年3月期第3四半期	143,687	5.4	4,530	7.7	5,164	11.6	3,190	△12.0

(注) 個別業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。